



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2016年2月発行(第70号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

[目次]

◎巻頭メッセージ:「悪霊の杯」 エレミヤ

◎証:「作られた二度に渡る再臨の教理」 E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ]

「悪霊の杯」

by エレミヤ

＜悪霊の杯を受けることの意味合い＞

今回は「悪霊の杯」として、このことを見ていきたいと思えます。バビロン、アメリカのキリスト教会のリバイバルの霊を受ける者は、悪霊の杯を受ける者となる、ということを見ていきたいと思えます。

テキストは、Iコリント人への手紙10章7～22節です。この箇所をテキストに沿って、順に見ていきましょう。

[聖書箇所] Iコリント人への手紙 10:7

10:7 あなたがたは、彼らの中のある人たちにならって、偶像崇拝者となつてはいけません。聖書には、「民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った。」と書いてあります。

ここに、聖書には、「民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った。」と書いてあります。偶像崇拝と関連して「飲み食い」のことが書かれているのです。

「飲み食い」は、聖餐式のパンを食べること、ぶどう酒を飲むことに通じます。ですから、聖書がたとえを通して警告している偶像崇拝とは、他でもない、教会の中における偶像崇拝、器崇拝に関することであることが分かるのです。

人間の器、働き人を拝する、という意味での偶像礼拝を、終末の日において気を付けるべきです。終末の日に教会が背教をすることを聖書は預言します。その背教の大きな罪のひとつは、クリスチャンが偶像崇拝をすることです。以下のように書かれています。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録13:15

13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。

獣の像とは、反キリストという人間をたとえであらわした表現です。ですので、終末の日の背教の教会は究極の偶像崇拝として、反キリストという人間を神の様に拝むようになるのです。

悪霊の杯 エレミヤ

【聖書箇所】Iコリント人への手紙 10:11

10:11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。

この聖書箇所では、罪を犯し、荒野で死に絶え、約束の地に入れなかったイスラエル人について書かれています。そしてそれは、単なる昔話ではなく、「**世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするため**」であることが書かれています。すなわち、世の終わりに臨んでいる私たちにとっても、偶像崇拝の罪は無縁ではないのです。いいえ、惑わされてその罪に引き入れられるなら、かつてのイスラエル人のように約束の地、天の御国に入れられない可能性があるのです。ですので、この罪に関しては、よくよく注意することが必要なのです。神は偶像礼拝と関係してこう語られました。

【聖書箇所】出エジプト記 20:4

20:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

この戒めは、今の時代のクリスチャンである私たちにとっても、じつは大事な教えです。と言うのは、私たちクリスチャンは、たしかに世の中の人のように、仏像を刻んでそれを拝したり、礼拝をしたりはしません。

しかし、クリスチャンがキリスト教会の器や働き人を偶像視することは大いにあることなのです。そして、その器崇拝こそ、ここで言われている「**どんな形をも造ってはならない。**」との戒めに背く行いなのです。

今のキリスト教会で行われていること、すなわち、ベニー・ヒンなどの器を崇め、これらの器から下されるおかしい霊のぶどう酒を喜んで受けることは、まさにここで警告されている偶像礼拝の罪なのです。

【聖書箇所】Iコリント人への手紙 10:14

10:14 ですから、私の愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

再度、パウロは、「**偶像礼拝**」を避けることを語ります。未信者に対してではなく、クリスチャンに対して、この警告を語っているのです。ですので、私たちはこの警告を真摯に受け止め、惑わされて偶像を礼拝し、神の怒りを買うようにならないよう、気を付けるべきなのです。しかし、残念ながら、今のキリスト教会では、この偶像礼拝、器礼拝が盛んになっています。



ベニー・ヒンの悪霊リバイバル集会:それは悪霊のぶどう酒の杯

【聖書箇所】Iコリント人への手紙 10:15

10:15 私は賢い人たちに話すように話します。ですから私の言うことを判断してください。

パウロはこのこと、偶像礼拝に関することを、「**賢い人たちに話すように話す**」と述べます。ですから、このことに関して語る彼のことは、たとえや謎が含まれていることが分かります。神の知恵があって、始めて理解出来ることを、彼が話そうとしていることが分かるのです。偶像礼拝に関する奥義が、ここでは語られています。

悪霊の杯 エレミヤ

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙 10:16

10:16 私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。

偶像礼拝ということを語るに際して、まず、パウロは、聖餐式のパンとぶどう酒に関して述べます。このことの奥義を理解しないと、偶像礼拝に関する奥義を理解出来ません。解釈を語るなら、聖餐式のぶどう酒の杯を飲むことは、キリストの血を飲むことであり、それは聖霊と交わりを持つことなのです。そして、さらに聖餐式のパンを食べることは、キリストのからだにあずかることなのです。

終末の日においては、このこと、キリストのパン、さらに血である聖霊を受けることに関して攻撃が加えられます。キリスト教のリバイバル聖会である、ここで聖霊を受けられると思って出席したのに、その聖会でキリスト以外の霊、神以外の霊、すなわち、悪霊の杯を受ける、という問題が起きるのです。

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙 10:17

10:17 パンは一つですから、私たちは、多数であっても、一つのからだです。それは、みなの方がともに一つのパンを食べるからです。

教会の皆が、一つのパン、一つのからだ、すなわち、キリストのからだのみにあずかることが正しいのです。しかし、終末の背教の教会にあっては、キリストが語られた以外のパン、教えが与えられます。艱難前携挙説のように、キリストのからだからは出ていない教えです。

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙 10:18

10:18 肉によるイスラエルのことを考えてみなさい。供え物を食べる者は、祭壇にあずかるではありませんか。

供え物を食べる、という行いの重要性がここで語られています。イスラエルの礼拝においては、供え物を食べることが、そのまま礼拝行為であり、神と交わりを持つこととなります。同じ意味合いで、偶像への供え物を食べる、飲む、ということが、悪霊と交わりを持つことに通じるのです。

今の時代に即して言うなら、リバイバル聖会に出席して、その悪霊の器のパン(メッセージ)を食べ、霊の杯を受ける、ということは、クリスチャンにとり、重要な意味合いがあります。それは、聖書的に言うなら、供え物にあずかることであり、祭壇にあずかることなのです。それは、偶像礼拝に参加する行為であり、悪霊と交わる行いなのです。自分はただ、リバイバル聖会に通って、メッセンジャーの話を受け、按手を受けて帰ってきただけのつもりでも、じつは神の目には、偶像礼拝を行った、悪霊と交わるものとなった、と見なされる可能性があるのです。いいえ、そのような人は、事実悪霊と交わるものとなったと、神にも悪魔にも見なされてしまうのです。

〔聖書箇所〕 I コリント人への手紙 10:19

10:19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

さて、偶像に関してクリスチャンの間に、往々にして誤解があります。

それは、偶像には何の力もない、それは本当の神ではない、だから、気にすることは無いという考えです。本当の神ではないので、その偶像にささげられた食物を食べようが、食べまいが、そのクリスチャンにとって、何の影響もない、という考えです。たとえば、ある仏像があるとします。それは、ただの鉄の像です。ですから、それをクリスチャンが

悪霊の杯 エレミヤ

拝もうと拝むまいと、クリスチャンには何の影響もないという考えです。また、クリスチャンが仏像にささげた食物を食べても、それはただの像なので、食べたクリスチャンに対して、何の影響も与えることは出来ない、という考えです。

今の時代に即して言うなら、怪しそうな器のリバイバル聖会に出たとしても、それは、大きな問題ではない、たとえ、その器に多少問題があったとしても、人間の器に何が出来るのか、出席しても大した悪い影響など受けないのではないのか、という誤解です。

〔聖書箇所〕Iコリント人への手紙 10:20
10:20 いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

そのような考えに対して、パウロは、「**彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。**」と語ります。すなわち、鉄の像それ自体は無力でも、しかし、像を拝むことは他にもない、悪霊を拝むことになる、と語るのです。また、仏像にささげられたものを食べる者は、それを通して、悪霊と交わりを持つ者となる、と語っているのです。仏像は生きていませんが、悪霊は生きており、我々が悪霊と交わりを持つなら、その影響を受けます。

今の時代に関連して言うなら、ベニー・ヒン自体はただの人間に過ぎない、としても、彼の集会に出席し、その霊を受けることは、すなわち、悪霊の祭壇にあずかり、悪霊の杯を受けることに通じるのです。そして、ベニー・ヒンよりも、このこと、悪霊と交わりを持つことの影響のほうが大きいのです。悪霊からの直接の影響をクリスチャンは受けるようになる、そう語られているのです。ですので、おかしなりバイバル聖会に出ることは、

よくよく注意しなければなりません。

〔聖書箇所〕Iコリント人への手紙 10:21
10:21 あなたがたが主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは、できないことです。主の食卓にあずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあずかることはできないことです。

ですので、教会の聖餐式で主の杯を飲んだ上、さらに怪しい器のリバイバル聖会に出席する、ということは問題です。それは、「**主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むこと**」になるからです。それは、悪霊の杯であり、出席する人々は、悪霊の杯にあずかることになるからです。

〔聖書箇所〕Iコリント人への手紙 10:22
10:22 それとも、私たちは主のねたみを引き起こそうとするのですか。まさか、私たちが主よりも強いことはないでしょう。

ですので、私たちは知らなければなりません。ベニー・ヒンなどの悪霊の器の集会に出席し、そのリバイバルに狂奔する人々は、偶像にささげられたものを食べており、悪霊の杯を受けているのです。そして、我々クリスチャンがそのようなことは、神のねたみを引き起こしており、神の怒りを我々の頭上に積み上げることになるのです。

<淫婦バビロンの杯>

さて、今までの記述から偶像へささげられた杯、ということが分かると、黙示録に記載されている淫婦バビロンの杯、ということも理解出来るようになります。このことを黙示録の記述から見ていきましょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 14:8
14:8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品のぶどう酒

悪霊の杯 エレミヤ

を、すべての国々の民に飲ませた者。」

このバビロンのぶどう酒は、「激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒」であることが書かれています。なぜ、神はバビロンのぶどう酒に対して、怒りをもたれるのでしょうか？

上記コリント人への手紙には、悪霊の杯から飲むことが、神のねたみを引き起こすことが書かれています。ですので、このバビロンのぶどう酒とは、悪霊のぶどう酒であることが想像出来ます。事実、バビロンと悪霊とは関係があります。以下のように書かれているからです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 18:2
18:2 彼は力強い声で叫んで言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。」

このように、バビロンは悪霊と関係があるのです。そして、このことは、具体的に実現しています。淫婦バビロン、すなわち、アメリカのキリスト教会の器であるベニー・ヒン、ロドニー・ハワード、ケネス・コーブランドなどは、悪霊を下す器です。そして、クリスチャンがこのような器からの霊を受け、杯を飲むことは、悪霊と交わる不品行の罪なのです。ですので、神の民が主の食卓やら聖餐のぶどう酒を捨て置いて、悪霊のぶどう酒を飲むゆえ、神が怒りを発しておられることが分かるのです。

“その不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者。”

淫婦バビロン、すなわち、アメリカのキリスト教会の問題とは何でしょう？それは、まず、不品行のぶどう酒、すなわち、悪霊のぶどう酒、悪霊のリバイバルを神からのものと

誤解し、それに狂奔し、それのみでなく、他の多くの国にこの悪霊のリバイバルの霊を輸出したことです。それを聖書は、「その不品行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた者」と表現しています。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 18:3
18:3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」

この悪霊のリバイバルは、全世界の教会に飛び火し、広がります。しかし、それは、「激しい御怒りのぶどう酒」であり、神の怒りを引き起こします。ですので、我々クリスチャンはこの箇所を正しく読み、そして、聖霊により、今という時代の現状を理解しなければなりません。ベニー・ヒンなどの器が世界中でもてはやされていることの聖書的な意味合いを理解しなければならないのです。

それは、素晴らしい神の働き、聖霊の働きが世界中の教会に広がっているのでは決してありません。そうではなく、世界中のキリスト教会が器崇拜、偶像礼拝に陥っていることに対して、神の怒りが積みあがりつつあるのです。また、主の食卓をさしおいて、悪霊の食卓に連なり、悪霊のぶどう酒を喜んで飲んでいることに対して、神の怒りが燃え上がっているのです。このことを正しく理解し、この悪霊の杯から身を遠ざける者は、幸いを得ます。



バビロンの杯:それは悪霊の杯

作られた二度に渡る再臨の教理 E3

今回は、昨年（2015年）10月に土曜日の弟子の歩みの集会で、「二度に渡る再臨の教理」というテーマで、エレミヤ牧師がおすすめされていたことを紹介させていただきたいと思います。私自身、学びをさせていただく中で、自分だけではなく、一人でも多くのクリスチャンに「再臨」に関しての知識をわずかでも知っていただくことが出来たらなあ、と思いましたので、もし、興味がありましたら、お読みください。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

キリストが2回にわたり、再臨する、などという教理は長いキリスト教会の歴史の中でも最近になるまで、語られなかった教理でした。それは、初代教会時代にもルター時代の時代にも、誰ひとり語ったことのない教理です。これは、1830年頃、イギリスのJ. N. ダービーが広め、その後、C. I. スコフィールドが注解付き聖書で広げた教えなのです。

<主の日とキリストの日という区分>

この教理を語る人々、たとえば、スコフィールドは、キリストの日と主の日という2つの日の区分について語ります。一応彼らの言い分を聞いてみましょう。キリストの再臨は2度あり、その一つはキリストの日であり、もう一つは主の日であると語るのです。そして、それぞれの日は、以下のように異なる、と語るのです。

(キリストの日)

「それは、愛の日であり、聖徒に報いる日」

〔聖書箇所〕I コリント人への手紙1:8

1:8 主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保ってくださいます。

〔聖書箇所〕ピリピ人への手紙1:10

1:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく

(主の日)

それは、災いの日であり、「まことに、万軍の主の日は、すべておごり高ぶる者、すべて誇る者に襲いかかり、これを低くする。」(イザヤ書2章12節)のように、恐ろしい裁きと罰の日である。

〔聖書箇所〕II テサロニケ人への手紙2:2

2:2 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われるのを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。

(Darby 訳) II テサロニケ人への手紙 2:2

That ye be not soon shaken in mind, nor troubled, neither by spirit, nor by word, nor by letter, as [if it were] by us, as that the **day of the Lord** is present.

日本の新改訳聖書には、このように、主の日、キリストの日の区分があり、また、J. N. Darbyの翻訳した英語聖書も、このように区分を行っています。他の英語訳にもこの区分があるようです。

そして、Darbyらの教理によれば、聖徒は、一回目の再臨、空中再臨のときに携え上げられることになっているのです。なるほど、聖書がたしかに主の日、キリストの日という2つの異なる日に関して語っており、それぞれの日の意味合いが全く異なるなら、キリストの再臨も2回あるのか、などとも思えてしまうのです。しかし、だまされてはいけません。これは、じつは人為的に作られた訳であり、作られた教理なのです。

作られた二度に渡る再臨の教理 E3

＜KJV訳聖書には、主の日、キリストの日の区分など存在しない＞

聖書に本当に主の日、キリストの日の区分があるのかないのかを考えると、聖書の原典、正しい写本のことを考えなければなりません。そして、前号で述べましたように、現在の聖書翻訳が間違いだらけ（corrupted text）のギリシャ語写本をもとにしており、信憑性がないこと、正しい多数派写本（majority text: 5000以上の写本のうち内容の合っている95%以上の多数テキスト）を反映していないことをまず考慮しなければなりません。

J. N. Darbyの訳した英語聖書も同じく間違いだらけの写本を基にしています。それらをもとにDarbyは主の日、キリストの日の2つの日に関して述べ、キリストの2回に渡る再臨の教理を作り出したわけです。ですので、彼の言うことを鵜呑みには出来ません。

正しい聖書写本はどう語っているのでしょうか？また、KJVはどうでしょうか？正しい多数派写本（majority text）を反映した唯一の英語聖書であるKJVは、この箇所をどう訳しているのでしょうか？Darbyが主の日と訳しているⅡテサロニケ人への手紙2章2節の箇所のKJV訳は、以下です。

（KJV訳）Ⅱテサロニケ人への手紙 2:2

That ye be not soon shaken in mind, or be troubled, neither by spirit, nor by word, nor by letter as from us, as that the **day of Christ** is at hand. （キリストの日）

何と、KJVでは、この箇所も「キリストの日」と訳してあるのです。ですので、結論として、間違いだらけの写本ではなく、正しい多数派テキストを反映したKJV聖書からは、キリストの日、主の日の区分などの教理は出てこないのです。そのような区分は正しい写本には存在せず、聖書はキリストの再臨に関

してたった一つの日に関してだけしか、語っていないのです。

キリストの日、主の日の区分とか、キリストの2回に渡る再臨の教理などは、Darbyが自分の意図的な聖書訳を用いて作った教理です。また、それは、スコフィールドが意図的な注解を行った人工的な聖書をもとに、Darbyの教理を補強した教えであり、聖書本来のみことばが語っている教理ではないのです。このことを知りましょう。

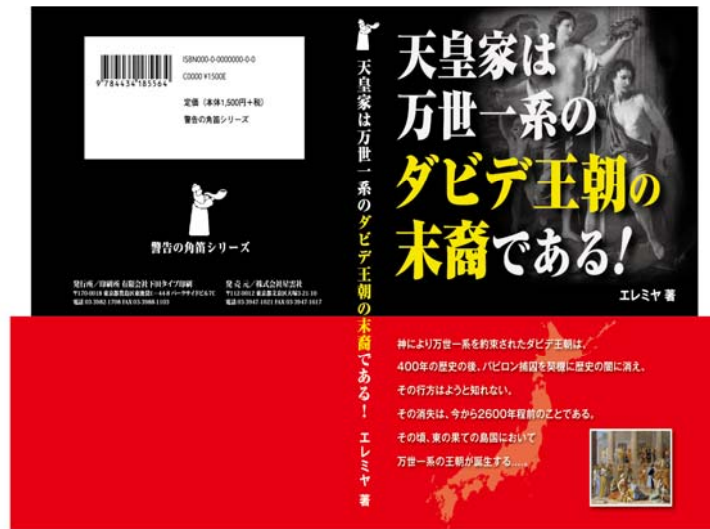
以上のことをエレミヤ牧師がメッセージされていたのですが、「再臨」に関して、概ねご理解いただけましたでしょうか？この度も、大事なポイントを語ってくださった神さまに感謝をお捧げいたします。



J.N.Darby

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

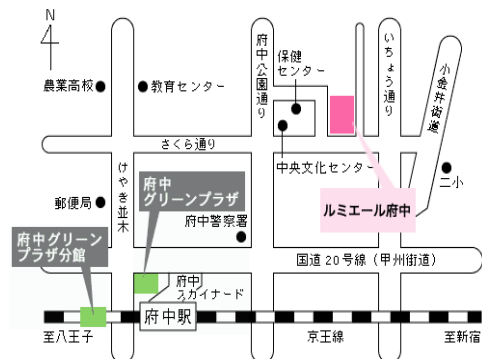
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>